

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29年 12月 5日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3493200079		
法人名	社会福祉法人 みどり会		
事業所名	グループホーム 府中みどり園		
所在地	安芸郡府中町浜田1丁目6番7号 (電話) 082-281-6700		
自己評価作成日	平成29年10月21日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3493200079-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年11月30日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

一人ひとりの生きてこられた歴史を大切に、「介護する人」「介護される人」ではなく、同じ人間として、尊重する。府中みどり園を、自分が年をとったときに生活したい場所として思えるよう、常に日々の生活について考えるという理念のもと、その人らしい生活を送って頂けるよう関わりを持っている。理念の場所作りを目指し全スタッフが「もしも自分だったらノート」にて、毎月目標を立て実行しリーダーと毎月振り返りの場を持つ取組みを実施している。平成23年4月の開設時より、ほぼ毎日、入居者様とスタッフが地域のスーパーへ買い物に出かけ、食事作りも一緒に行っている。買い物以外の外出も多く、家族様と一緒にの外出もある。行きたい時に行きたい場所へ。ご自宅や故郷、カフェ、ご友人宅、墓参りなどに日頃から出かけている。今年は宮島1泊旅行にもお連れした。地域との繋がりも大切にしており、府中町のグループホーム4施設にて、府中町グループホーム連絡会を運営しており、地域活動して認知症カフェを毎月開催している。今年度から新たに100歳体操をメインとした地域交流の場作りを行政、地域包括と取組み、入居者様が地域の方と一緒に参加し交流されている。地域の幼稚園、小学校、児童センターとも交流の機会を持っている。地域の介護ボランティアの方も毎月来られ入居者様と馴染みの関係を築いて頂いている。家族様にはこのような取組みを毎月グループホーム新聞を配布し生活の様子を発信している。家族様との交流行事は年に2回実施。毎年行っている周年記念祭では1年間の写真を映画上映し入居者様、家族様、スタッフの1年間の振り返りの場となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

府中みどり園の4階に2ユニットのグループホームがある。立地は勿論、学校、商業施設が多くあり恵まれた周辺環境に加え、市町や近隣住民との交流が盛んで利用者は生きいきと暮らしている。これは同事業所の施設長を始め職員の心を込めた、利用者に対する支援の取り組みと感じる。また常に理念を思い浮かべ、サービスの意義を振り返りながら日々努力している姿がある。利用者が希望する内容が、日常生活を通して困難と判断した場合、その人に合った代替サービスを行う為に、シフトを組み換えチームでサポートする体制が整っており、色いろな場面でこのような支援が見て取れる。研修や各委員会も排泄=すっきり委員会、お風呂=湯かげんはいいん会等、優しく分かり易いネーミングも皆で考案したり、利用者に寄り添った支援が出来る取り組みが数多くある。今後もこの姿勢を続ける為の努力にエールを送りたい。

自己評価	外部評価	項目(えんどう豆)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念の中の「生きて来られた歴史」を大切にするという点を通じ実践につなげている。地域に出向くこと、関わることも積極的に行っている。	同事業所は、全職員が常に理念を念頭に置き、実践に繋げている。時には職員は「この支援方法は理念に沿っているか」と管理者、ユニットリーダーに確認を求め、日々自己振り返りシートも活用しながら取り組む姿がある。研修も毎年4月に全員参加で、理念を柱にブレない支援を共有し行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	認知症カフェ開催、挨拶運動、地域の小中学校行事への参加、幼稚園との関わり等、日常的に交流がある。	府中町ボランティアで、近隣住民によるお助け隊があり、月1～2回事業所を訪問し話し相手としての活動があり交流が生まれている。天気の良い朝には、利用者は車イスで職員と見守り隊の活動に参加し、小学校入口で、あいさつを通して子供達と繋がりがながら地域にとけ込んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域4つのGHによる連絡会での取り組み(認知症カフェ等)や認知症サポーター養成講座にて地域へ発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	グループホームとして行っている取り組みや事故、その対策等の報告と行い、意見交換を行っている。	会議は本人や家族が核となり、関係者と共に2か月に1度開催している。入居時に家族に対して、運営推進会議への参加を持ち回りで出席頂いている事を説明し、その結果多くの家族が出席している。時には事業所に訪問時、会議に飛び入りで参加する等開かれた雰囲気での会議が行われている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	町の開催する行事に参加。そしてGH連絡会を通じての関わりにも町の関係者に参加いただいている。それらのなかで、みどり園としての取り組みについて伝えている。	市町担当者は、毎回運営推進会議に出席している。担当者は、グループホーム連絡会が運営するカフェや昼食会に参加したり、必要な場合は助成金の支給もある。またお助け隊は、年1回ボランティア講座に参加し、積極的に市町と協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項 目(えんどう豆)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	基本的に玄関やエレベーターの施錠は行っていない。また、全体会議の研修にて正しい理解を広げており、ユニット会議では個別ケースの検討をしている。	1階の玄関のみ施錠しているが、全館フリーで利用者はエレベーターにも自由に乗って行き来している。職員は利用者一人ひとりの情報を把握、共有し自然体で食べたい行きたい場所等、希望が叶えられる様、チームで支援出来る様努めている。戸外で迷った時「徘徊ネットワーク」に家族の許可の基、届出している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	全体会議にて勉強会を行い、虐待について予防、認識についてを広げ予防に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	全体会議での周知の他、ユニットでも権利擁護と虐待を関連付けて話を行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者、リーダーが中心となって行っている。必要事についてはもちろん、疑問に思われること、気になることを逐次お聞きし確認している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご面会の際の関わり、意見箱の設置にて要望、意見収集に努めている。ユニットに反映した内容は運営推進会議や広報誌を通じ発信している。	家族からの要望や意見は、来所時に話し合ったり運営推進会議で意見交換を行っている。事業所が毎月発行している「ピース通信」は、利用者が平等に掲載されるよう気配りを行い3ヶ月に1回、手紙と共に家族に送られている。遠方の家族からの意見は喜びの声が多い。	

自己評価	外部評価	項 目(えんどう豆)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な個別面談の実施と会議での意見交換を行い、検討のうえ反映に努めている。	事務長と施設長が、職員と個別に運営に関して面談の機会を設けている。「魅力ある職場環境」を目標に意見や提案を聞き、やりがいを持って働けるよう意見の反映に努めている。職員も「もしも自分だったらノート」に、こうしたい等書き込み、運営に役立てるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	月に一回の個別面談の実施、理念に関する関わりと月間の目標の設定と、就業意識の向上をできるような心がけている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	園外研修と報告会にて各スタッフへの還元。また、園内勉強会、資格取得のための勉強会も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他の事業所との勉強会や、GH連絡会にて認知症カフェの実施、日々の意見交換や職員同士の交換研修を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前の面談や訪問での聞き取り、本人様の歴史を大切にしながらの要望を捉える。入居後も信頼を得られる関係性作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目(えんどう豆)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	本人様同様、聞き取り、関わりを通して信頼関係を構築する。こちらからお声かけをし、話しやすい雰囲気になるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人様、ご家族双方との関わりのなか、どのような暮らしをされていて、どのような支援が必要かを見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	理念に沿い、互いを尊重し合いながら関わられるよう努めている。理念の周知、それに沿った行動についても日々の話し合いや面談を通じて意見を交えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	来園時の交流、ご家族を交えた行事の実施、ご自宅へお連れするなど互いに関わりの関係性を保てるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	縁の地や行きつけの店など、本人様の歴史を尊重した外出行事や取り組みに力を入れている。可能な限りご自宅へもお連れしその方の生活され、生きてこられた道を重んじている。	入居時に管理者、ユニットリーダーが、入居希望者の自宅に必ず訪問し、暮らし方を本人、家族から聞き取り「生きてこられた歴史」を大切に、入居後は利用者一人ひとりにアルバムを作成し、馴染みの人や場所を大切に、途切れない関係継続を支援している。	

自己評価	外部評価	項 目(えんどう豆)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	各々の関係性の把握をし、それぞれの表情やお気持ちに寄り添いながら周囲との交流が出来るよう力を注いでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	亡くなられた方のご家族にお話を伺う機会や行事に参加いただいたり、一定人数であるが定期的に園に足を運んでいただける方もいる。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の発する言葉や表情に注視すること、ほっこりノートなどのツールを使いユニット全体としてお気持ちに沿えるよう努めている。	利用者の会話や表情、しぐさ等をスタッフは日頃の「ほっこりノート」に記載し、スタッフミーティングで共有する中で、多くの職員が逆に癒されていると言う。その利用者の言葉等をカルタにして、利用者の顔写真を貼り正月に何度も楽しんでいる。職員は更に思いを把握し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前訪問、本人様並びにご家族への聞き取りのなかで情報を常に得ようとすること、また、得られた情報をサービスに還元できるよう共有する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々状況を見させてもらい、会議や日々の情報交換にて現状を把握する。必要事項は随時記録に残していく。		

自己評価	外部評価	項 目(えんどう豆)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>スタッフ間やご家族、その他看護師や栄養士などの意見を反映した計画書の作成に努めている。</p>	<p>計画担当者と看護師、本人、家族が年2回カンファレンスを通して課題を話し合い、関係者の意見も参考に、現状に即した介護計画を作成しているが、家族と本人の希望が一致しない場合は、更に精査しよりよく暮らせるよう、見直しを行いながら介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の生活の様子を記録するとともに、必要事を申し送りとして挙げることで、介護計画書にも反映している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>他職種との連携はもちろん、地域との関わりなど、既存の入所サービスに囚われない関わりをしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域ボランティアの活用、認知症カフェの開催と参加、府中町地域行事への参加等行っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>園のかかりつけ医の定期往診実施の他にも、状況に応じては希望する病院への受診をさせていただいている。</p>	<p>事業所は特養と共に、家族、主治医も出席して全体会議を行い、安心した医療が受けられるよう支援している。事業所のかかりつけ医の簡単なプロフィールを、エレベーター内に掲示し、親しみやすく相談も出来易く環境にも気配りがある。看護師は常駐しており、状況に応じた適切な医療支援が確保されている。</p>	

自己評価	外部評価	項 目(えんどう豆)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>看護師の日々の連絡、処置や緊急対応の要請など密な関わりを行っている。介護計画作成に関しても医療的視点から意見をもらっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>医療機関とのやり取りは管理者を中心として行っている。また、入院されている入居者が安心して過ごしていただけるよう、面会に行かせていただくこともある。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>事前にお気持ちを伺うことと、普段の関わりの中かでニーズを把握すること、そして重度化や終末期を迎えた場合には看護師も交え支援の計画を立てている。</p>	<p>入居時に、重度化に向けた指針を説明し同意を得ている。家族は終末期を同事業所で迎えたい希望が多くある。事業者は終末期ケアの経験が多く、職員はケアを振り返り話し合いを重ね、会議では看護師や施設長が支援の有り方を話す等、関係者がチームケア出来る様取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>連絡系統の明確化、急変時の対応のシミュレーションを行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>定期的な防災訓練の実施。防災委員会を中心とした対策作りを行っている。</p>	<p>同事業所は、福祉関係の避難場所になっており、町内会とも防災協定を結び、地域との協力体制を築くよう努力している。また母体の防災委員会で、検討会議でシミュレーションを行い、例えば発電機の必要性に気付く等見直しを行っている。備蓄は建物の4階に全施設分を確保している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(えんどう豆)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	介護者、被介護者ではなく、対人として尊重し敬意を持って関わるよう心がけている。	理念、接遇の研修は毎年行われている。職員は日頃より利用者一人ひとりに、もしも自分だったらを問いかけ接している。また「自己ふり返しシート」を活用し、改善しながら支援に取り組んでいる。その人の人格を知る一つとして、過去から現在まで載った個人アルバムも活用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人様の思いややりたいことを普段の会話から聞き出す、そのうえでその思いを尊重できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々の思いに寄り添いつつ、一人ひとりのペースに沿えるよう努めている。入居者視点での時間の作り方がひとつ課題でもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	鏡の前で整容していただいたり、可能な限りご自身で服を選べるよう支援する。美容院にお連れしたり、衣類を買いにお連れしたりとその方その方に沿った支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	買物にお連れして食べたい物や旬な物を選んでいただいたり、一緒に料理していただくことで食事が楽しくなる取り組みをしている。	朝食時間は、食べたい時にパンやごはんを選んで食べられる。毎日の献立は、その日の食材を見て利用者と共に決める。その為毎日利用者と買い物に出掛けている。時にはベランダで気分を変えて食事したり、外食も様々なものを選び、職員は細やかに、そして楽しい食事支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項 目(えんどう豆)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>テーブルに急須を置き自由にお茶を飲んでいただいたり、入居者自身にご飯をついでいただいている。好みの献立等の対応も臨機応変に対応に努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>夕食後の全入居者の口腔ケア、その他にも必要に応じ随時口腔ケアを行っている。入居者によっては合わせて定期的に歯科往診を受けられている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>生活状況記録等を使い、各入居者の排泄ペース、量の把握を行い自立へ向けた関わりに努めている。</p>	<p>利用者一人ひとりの生活習慣や平素の暮らし方を見て、タイミングを見計らい、不必要なバット等は、出来るだけ使用しない様になっている。職員は担当者を中心に話し合いを行い、情報を共有しながら自立に向けた支援に取り組んでいる。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>生活状況記録にて各入居者の排便の状況を把握し、牛乳を飲んでいただく、運動をしていただく等、薬だけに頼らない関わりをしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>本人様の希望に沿えるようお気持ちを伺う対応を心がけているが、概ね「午後から」と入浴時間が固定化されつつある現状もある。</p>	<p>利用者の生活スタイルを大切に、入浴の頻度、時間帯、更にはその日の健康状態を考慮し支援している。時には特養にある”青森ヒバの大きな風呂”に入る事も有り、とても評判が良い。また希望があれば日帰り入浴に職員と遠出して、楽しむ事も有る。</p>	

自己評価	外部評価	項 目(えんどう豆)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>元々の習慣や、その日その時の 体調や気分を汲み取り必要な休 息をとっていただいている。また、 臥位の安楽な姿勢についても勉 強会を通じ取り組んでいる。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>薬のファイルにて情報を管理。服 薬の方法も本人様の嚥下状態や 心身の状況を鑑みて行われてい る。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>個人ファイルにてその方の歴史 をスタッフ間で共有。日常の中で 家事、趣味活動、外出等の様々 な方法で役割、楽しみごとを持 っていただけるよう支援に努め ている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。</p>	<p>毎日の食材の買い出しの他、散 歩、地域行事への参加、季節ご との外出等、多岐にわたり行っ ている。ご家族とともに出かけ られる機会も作っている。</p>	<p>平素の外出は買い物や近くに散 歩したり、カフェに出掛けたり と外出は多い。利用者の希望で 自宅の仏壇にお参りも行く。季 節には宮島に出掛け、それをき っかけに次の機会は、宮島に1 泊旅行にも出掛け好評である。 事業所は今後も更なる取り組み に向け努力している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>一部の方は実際に買物に行かれ た際に自身で支払いをされてい るが、その他の方は預り金とし て管理されており、ご自身が支 払いを行うことへの支援という 点での認識はユニットで持てい ない。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(えんどう豆)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>日常的ではないが、本人様が希望される方にはお電話をかけていただくこともある。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>リビングの空間の演出としては過度なものをせず、「家」の雰囲気大切にしている。</p>	<p>居住空間は、建物の4階でフローア入り口には柴犬がケージの中から見守っている。その横に二人掛けのソファが有り、テーブルの上にはベランダで皆が収穫し、料理した写真がある。利用者はリビングからこのコーナーに来て、会話を楽しんだり居心地よくフローアを行き来している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ソファの配置、テレビが見たい方への席場の配慮等、共用の空間の中でも各々が落ち着いて過ごせるよう努めている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居時、なるべく使い慣れた馴染の家具をお持ちいただけるよう家族様へお願いをしている。心地よく暮らせる工夫に関しては会議にて必要に応じて意見交換をしている。</p>	<p>入居前に、職員は自宅に訪問し大切にしているものを把握し、持参頂いている。居室には趣味の作品が飾られたり、好きな洋服がハンガーラックに掛けられ毎日着替えを楽しんだり、鏡台を持参しお化粧を楽しむ利用者もいる。また必要な時には家族が泊まり込んだりもしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>手すりの設置等、見守りのもとなるべくご自身で行っていただけるよう支援に努めている。小さなことでもゆっくり見守る援助を心がけている。</p>		

V アウトカム項目(えんどう豆) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム府中みどり園

作成日 H29年12月31日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	日々、言葉遣いは注意しているが、配慮にかけることがある。	理念の場所として自分が、自分の大切な人が住みたいと思える場所作りを目指し、言葉遣いをさらに配慮する。	毎月のユニット会議、面談にて言葉遣い、プライバシーへの配慮、姿勢について5分～10分間振り返りの場を持つ。	1年
2	10	家族様が面会に来られた時の配慮が薄れてきている。	家族様との関係を築く。	面会時にはお茶、椅子をお出しする。アルバムを見て頂きながら日頃の様子をお伝えする。毎月のGH通信配布、年2回の家族様との交流行事も継続していく。	1年
3	11	入居者様の健康、医療面、安全面のことについて、家族様への伝達が不十分なことがある。	家族様の健康、医療面、安全面に対する不安を解消していく。	家族様面会時には看護師、管理者、リーダーより、医療面の伝達事項をお伝えする。事故が起きた時には対策をリーダーよりお伝えし、チームでしっかり取り組み、その後の対策実施状況を面会時や電話連絡にてお伝えする。	1年
4	33	看取り後の家族様に向けてのグリーフケアがしっかりと出来ていない。	グリーフケアを実施して、家族様のお気持ちを少しでも和らげて頂けるよう努めていく。	看取りに関わらせて頂いた家族様ご連絡をとり、自宅に行かせて頂き、仏壇を拝ませて頂く。家族様交流行事に参加して頂く。手紙をお出しする。	1年
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。